1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0470300286		
法人名	社会福祉法人　大和福寿会		
事業所名	グループホーム　やすらぎの里　　ユニット名　壱番地の3		
所在地	宮城県塩釜市字伊保石30－1		
自己評価作成日	平成　30年　10月　　20日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	NPO法人　介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4－2－8　テルウェル仙台ビル2階
訪問調査日	平成30年11月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

当法人では、多種多様なサービスを提供しており自宅や施設での切れ目のない生活の継続が出来るよう安心で快適なサービスを提供している。やすらぎの里ではユニットの枠を超えて交流を深め、クラブ活動のなっぱクラブでは家庭で定番の野菜を育て収穫を楽しんでいる。地元梨園の協力を頂き梨狩やあやめ祭り、塩釜神社・お釜神社への参拝など外出支援を行っている。また、町内会の一員として毎月2回のダンベル体操に参加しお茶のみに呼ばれ楽しく会話している。行事に参加し合い積極的な交流で職員とともに馴染みの存在になり信頼関係を深めている。毎週当法人の大入浴場で温泉気分を味わい、特殊浴場を利用し負担なく入浴して頂けるよう努めている。入居者の「自立している事・支援が欲しい事」を把握し、役割を持って生き生きと穏やかに生活できるよう支援に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

利府中インターから東につながる「ふれあいトンネル」を抜けたところに「やすらぎの里」がある。広い敷地内には、同法人が運営するクリニックや老健施設、デイサービス等がある。それらが隣接していることから、外出時の車両や災害対応などで協力、連携している。ホームの北側にある千賀の台町内会と交流があり、社員食堂の地域開放や行事に招待しあうなどしている。玄関前を一緒になって笑いながら落ち葉を掃き集める様子は、理念の「ゆったりとした自由な生活、ふれあいを大切に」の実践に見えた。入居者がしたいことを継続できるようにサポートし、「その人らしさ」を大切にした生活が送れるよう努めている。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）		1. 毎日ある
		○	2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名　グループホームやすらぎの里　)「ユニット名　3番地　」

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	やすらぎの里ホーム理念と棟理念を提示し、理念に基づいたケアの実践に努めている	「ゆったりとした自由な生活、ふれあいを大切に」のホーム理念を軸として、「寄り添った介護」など、3棟が各理念を掲げている。入居者を個別に把握し、目配り、気配りすることで、その人を大切にするケアに繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会活動としてイキイキ体操、敬老会、夏祭り等に参加、また運営推進会議にも参加いただき交流を深めている	法人施設の食堂やトレーニングルームを住民が利用している。町内会から地域の高齢者について相談を受けたり、災害時に発電機を借りるなど助け合う関係である。納涼会では焼きそばなど住民と一緒に作った。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に地域の方々にも参加して頂いた際や地域の行事参加の場も利用して認知症への理解を得る機会を持っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の開催で行政、町内会、家族、入居者が参加。意見を求め、サービスの向上に努めている	家族や入居者が参加して、「口腔ケアの大切さ」や「実りの秋を楽しむ」などのテーマを設けて開催している。協力医の講話を聞いたり、防災訓練の実施など、現場をより知ってもらうことを意識した会議にしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議、研修会参加の際や都度の必要に応じ連絡、相談を行っている	地域連絡ケア会議で検討した困難事例の対応などを、ケアに活かしている。市の介護支援ボランティア活動事業によるボランティアの来訪が多い。市主催の研修に出たり、建物の老朽化に伴う補強について相談した。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止委員会を設置し、外部・内部研修で職員全員がその理解に努め、身体拘束は行わないケアを実践している	入居者が急に立ち上がった際には、行動を止めるのではなく、身の安全を確保しながら、まずは見守ることをしている。勉強会では、拘束の行為に対する意識調査をし、適正な対応は何かを学習した。自由を奪わないケアに心掛けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を設置し、会議の都度、「虐待行為とは？」を考え虐待防止に努めている		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修等に参加し理解を深め、勉強会を通して職員間においても共有できるよう努めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、入所中、退所時等、都度に十分な説明をするよう心掛けている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情対策委員会の設置、意見箱の設置し、面会時などに意見、要望を伺う機会を設けて運営に反映させている	「飲酒させて」や「寒がりだから」「外出好きなので」の要望に対応している。毎月発行する「かけはし」に、その人に向けた便りと写真を送っている。信頼関係を築くことが、意見の引き出しにつながるとしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送り、月1回の棟会議、3か月1回の全体会議で話し合い反映させている	正月の繭玉づくりや花見弁当、ミカン湯など入居者と楽しむアイディアが反映されている。季節の行事や「お達者クラブ」での活動など、職員が得意なことを発揮する機会でもある。ユニット間での職員交流がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則一覧を事務所にていつでも閲覧できる。また、資格取得するための日程調整や諸経費補助で積極的に行っている。個人のノウハウを生かせる役割分担で向上心を持って働いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部・内部研修に参加しスキルアップを図っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	塩釜市主催のケア会議や事例等の勉強会に参加し、同業者との交流を深めサービス向上に繋がるよう取り組んでいる		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	実態調査と本人・家族とのアセスメントを基に、少しでも早くなじみ、安心できるよう、いつでも話ができるよう配慮に努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込み・受付の段階で話を伺い、入所後も都度、面談する機会を持ち、信頼関係を築けるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期アセスメントと様子観察を踏まえ、適したサービスの提供に努めている。要望を話しやすい雰囲気つくりや転倒等の危険予測、適した福祉用具の活用などの対応に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事や日常の活動を職員と共に行うことにより共同生活者としての関係を築けるよう努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に職員から日常の様子を伝え、家族からは生活歴の情報を得ることで本人にとってより良い支援を提供できるよう努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族、友人が気持ちよく面会できるよう配慮し、行事へのお誘い等も毎月送付している	職場だった魚市場やお気に入りの足湯温泉に行く、自分で選んで洋服を買うなど、これまでの生活と無縁にならないよう介護計画に入れている。地域で馴染みの塩釜神社や多賀城址あやめ園に出掛けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	自然と会話を楽しめるよう配慮しながら円滑な関わり合いになるよう見守りに努めている		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されてからも状況についての相談や他サービス利用についての相談・支援に努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人・ご家族の意向を踏まえ、できるだけ本人の希望・意向に近づけるよう検討している	その人を知るための会話の時間をとっており、職員は本人の自己紹介ができるほど理解している。本人の困りごとや暮らし方の要望を把握し、対応している。介助の際は「～していいですか」と声がけしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常の会話やご家族様からの情報を蓄積し、自己紹介文を作成し把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の気持ち、気分への配慮と、できること・できないことの把握には常時努めて、職員間で共有している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常の申し送り、棟会議をモニタリングの場として本人・家族の意向を踏まえながら意見交換し、プランに反映させている	宮城県の151シートを用いてサービス計画書を作成している。本人、家族の意向やニーズに変更がない場合でも、モニタリング(6ヵ月毎と随時)をもとにサービス内容を変えた取り組みを計画に入れている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、ケアの実践・結果、気づき等記録に残し、職員間共有しながら介護計画作成に活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	要望に応じての外出、往診、訪問歯科、訪問マッサージ、福祉用具の利用について家族と相談を行い必要な支援に取り組んでいる		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事や季節行事、買い物イベント等で地域資源を利用し、楽しく充実した生活になるよう支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の要望を受けている。ホームでは委託医・歯科の往診支援。また要望に合う往診・受診も支援している	入居者に変化が生じた時は、看護職員に連絡し、指示をもらうなどの24時間体制ができている。状態に応じて、かかりつけ医と連絡を取り合いながら適切に対応する。経過と結果は、家族に伝え、職員間で共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職を配置しており利用者様の健康状態を随時伝え委託医の指示を仰ぐ連絡等、適切な連携を図っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合には病院、ご家族と連絡を取り合い、退院後の受け入れについても相談支援している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合における対応に係る指針について説明し同意を得ている。	「重度化した場合の施設対応指針」の中で、主治医の判断によることや家族協力の必要性を示している。看護師を講師にして「高齢化に伴った変化の特徴」などの勉強をしている。現在、終末期の人はいない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時マニュアルを作成し対応している。初期対応の確認を勉強会等で行っている。また緊急時の連絡体制を整えている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自衛消防隊を編成している。避難経路を掲示し、年2回防災避難訓練を実施している	隣接する施設の職員を含めた「自衛消防隊」による防災体制がある。「全員の迅速な避難誘導」をテーマにするなど、訓練への課題をもって取り組んでいる。反省を踏まえ、緊急自動通報の見直しをした。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	第3者からみても快い声がけであるよう配慮しながら笑顔が多くみられる支援になるよう心掛けている。自立度に合わせ、居室でくつろげるよう配慮に努めている	職員は、「その人の自己紹介文を書く」ことを課せられている。丁寧な会話の時間を持つことで、その人を理解し把握している。その人のペースに合わせた過ごし方やそれぞれの認知症状への適切な対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定しやすい声がけ・工夫を常に考えながら支援に努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調、表情、言動、行動から日々のちょっとした変化にも気づけるよう努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己選択を優先しながら季節、気候に合った清潔な身だしなみになるよう支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食の盛り付けや配膳に加わっている充実感が得られるよう感謝の声がけをしている	法人の管理栄養士が献立を作り、食事での入居者の様子を見て、代替食や食形体に反映させている。一部は隣接施設で調理している。行事食などの職員提案や「パンにして」の家族希望も活かされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態や嗜好については管理栄養士に相談しておる。毎日の食事量、水分量を把握し本人に合った食形態を検討し提供できるよう努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	月1回協力歯科医による口腔ケアに関する指導を受けている。本人の自立度に応じて準備や声がけ、介助を行っている。義歯使用の方は、夜間帯に洗浄液に浸けている		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用。本人の排泄パターンを把握してトイレで排泄できるよう声がけ、誘導している	チェック表で朝に失禁しやすいことが分かり、時間をずらすなど工夫している。パッドの大きさ、交換回数など、その人の排泄状態に合わせて対応している。リハビリパンツを常態と考えず、失敗を少なくする誘導で布パンツになった。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を活用し、各利用者に合った排便コントロールに努めている。看護師・医師に都度、状態報告し、指示を仰いでいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	生活習慣に合わせ入浴の好みを把握しそれに近づけるよう努力している	毎日入ったり音楽をかけるなどの習慣を大切にしている。隣接施設の特殊浴槽を利用したり、大浴場を楽しむこともある。介助の際に、本人が喜んだ話題を職員間で共有しケアに活かしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は個々で対応している。また一人になれるスペースを確保して自由に利用できるようにしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤訳防止の為、服薬は職員管理。処方薬はフェイスシートに記入して効能、副作用の把握に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事参加の際は感謝する事で必要とされている喜びを感じて頂きながら外出、クラブ活動、季節行事等で気分転換が図れるよう支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者の安全確保の為、玄関等を施錠している。本人の希望や気持ちにそって都度、外出できるよう支援している。また個別支援等でなじみの場所への外出を試している	外出により筋力の発揮や笑顔になるなど、その人の力が発揮されることを感じている。出たがらない人には、職員を変えて誘うなど工夫している。外出の頻度は、各棟の計画作成担当者が計画しており一律ではない。誕生日や本人希望で個別の外出支援がある。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族と検討して入居者様に応じた所持、使用を計画に取り入れて支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人、ご家族の意向を考慮しながら電話、手紙の取次を支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合ったレイアウトを利用者様と一緒に作成し飾っている。玄関、居間にソファ設置し、和室は自由にしようできるように配慮している	3棟に囲まれた中庭は、西瓜割りや七夕飾りで賑わう。居間は窓一面がガラス張りで、陽光の具合を見て遮光するなど気を付けている。日に2回の清掃で清潔を保ち、一緒に製作した折り紙紅葉が飾ってある。畑では大根など季節の野菜を育て、食卓に乗せている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自然にくつろげる配置を考慮している。自分のペースで居場所が選択できるよう支援している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族協力のもと、本人の馴染みの物を持参して頂き、安心して過ごせる居室になるよう考慮している	床は畳を模したリノリウムである。洗面台とベッドの備え付けがある。状態や好みに応じて、布団の人もいる。クロスワードパズルや読書で過ごす人もいる。夜間は入居者の体調を把握して、巡回している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや表札等、分かりやすい表示をつくり、「できること」が増えるよう考慮、配慮に努めている		